

**海外からも注目されています**  
 当院には様々な国や地域の医療関係者の方が見学に来られます。ここ数ヶ月で中国、韓国、香港、ベトナム、イラン、モンゴルなど…質疑応答では日本の医療制度や地域包括ケア、回復期リハ病棟での取り組みについて熱心に質問され高い関心を持たれていることがうかがえます。「非常に参考になった」などご意見をいただき感謝と共に身が引き締まる思いになります。今後もより良いサービスをご提供できるよう努めてまいります。



**年始の飾り付け**  
 当院では毎年年末から年明けにかけて患者さまや来院して頂いた方々に季節感を感じていただけるよう入口に門松、総合受付と外来受付に凧を設置しています。和紙で作られた本格的な凧をみて、皆様へ好評頂いております。昇降機を出して天井から吊り下げて設置する為、設置している時に声をかけて頂いたりと交流の一環にもなっています。移りゆく季節を感じる事が出来ました。



**船橋市リハビリセンターだよりがリニューアルいたしました!!**  
 船橋市リハビリセンターでは船橋市の指定管理として年4回情報誌を発行しています。当センターが開設2年が経過しました。改めて地域へ向けた情報誌として、よりセンターの活動をわかり易くするために「船橋市リハビリセンターだより」として11月10日よりリニューアルしました。初回発行部数は800部で、患者・利用者さま、地域医療機関・ケアマネジャーの皆様へお配りしすぐに在庫切れの状態となりました。内容もとても好評で特にケアマネジャーさんの間では常に持ち歩き、利用者さんに見せながら説明して下さっている方もいるそうです。



**第4回失語症交流会「実りの会」開催**  
 平成28年11月25日（金）18時～20時にたいとう診療所5階にて「実りの会」が開かれました。当院の外来、通所、訪問STの利用者と家族に交流の場を提供することを目的に平成25年に始まり、4回目の今年は利用者様21名とご家族13名、スタッフ15名が集まり、パワーポイントを使った発表、歌、ハーモニカ演奏などの舞台発表や書、絵画、手芸作品などの展示を楽しみ交流を深めました。次年度の活動へ繋がっていくことが期待されます。



**地域のお祭り参加で親交を深める**  
 10月23日に地域のお祭り「第18回祖師谷ふるさとフェスティバル」にファークロス薬局成城さんと合同で出店しました。血圧・握力・血管年齢・体脂肪を無料で測定し、健康チェックとアドバイスを実施しました。当日は天候にも恵まれ、子どもから大人まで100名以上（うち半数は70歳以上）の地域住民の皆さまにご来店いただき大盛況でした！地域で親しまれる施設となるよう来年も出店致します！



季刊情報誌「輝net」 編集・発行 医療法人社団 輝生会 本部/〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9 5F <http://www.kiseikai-reha.com>

初台リハビリテーション病院 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3 TEL.03-5365-8500 <http://www.hatsudai-reha.or.jp>  
 船橋市立リハビリテーション病院 〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1 TEL.047-439-1200 <http://www.funabashi-reha.com>  
 船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL.047-468-2001 <http://www.funabashi-rehacen.com>  
 在宅総合ケアセンター元浅草 〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17 TEL.03-5828-8031 <http://www.motoasakusa-reha.com>  
 在宅総合ケアセンター成城 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-8-7 TEL.03-5429-2292 <http://www.seijo-reha.com>

本誌へのご意見ご要望はメールにてお寄せください。 [contact@kiseikai-reha.com](mailto:contact@kiseikai-reha.com)

人間の尊厳を保持し、自己決定権を尊重します



理事長 石川 誠

2017年の年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。医療法人輝生会は2002年の初台リハビリテーション病院を筆頭に、2003年に在宅総合ケアセンター元浅草、2004年に在宅リハビリテーションセンター成城、2008年に船橋市立リハビリテーション病院、そして2014年に船橋市リハビリセンターの運営を開始し、5拠点で事業展開をする法人となりました。事業内容を簡潔に表現すれば、寝たきりにしない、寝かせきりにしない医療サービスを提供することです。

第1の事業は、急性期の病院から回復期リハビリテーションを必要とする患者さんを可能な限り早く受け入れ、入院による

集中的・総合的リハビリテーションを提供することで、より快適な在宅復帰を可能とすること。第2の事業は、在宅復帰後も通院・通所・訪問・短期入院などによるリハビリテーションを中心とした在宅ケアサービスを提供することで、安心・安全な在宅生活が継続できるよう支援することです。また、昨年からは第3の事業として各拠点が、船橋市、台東区、渋谷区、目黒区、世田谷区の地域リハビリテーション支援センターとして積極的に活動を開始しております。

現在、当法人は1,200名を超す職員数を擁する法人となりましたが、とかく規模が大きくなると質の低下を招くと言われてますが、そうならないよう教育研修には最力を入れているところです。当法人の理念である「人間の尊厳保持」「自己決定権の尊重」を大切に、更なるサービスの質の向上に向け邁進いたします。本年も何卒よろしく願い申し上げます。

さらなる人材の育成システムの充実を目指します



教育研修局長 水間正澄  
 新しい年を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。

当法人の教育研修システムは長年かけて築き上げられてきたものですが、教育研修局では昨年4月から新しい体制で活動を開始し新たな取り組みにも着手することができました。これからも輝生会の理念を实践し伝えてまいりますのでよろしくお願いいたします。

新年度になりますと新しい仲間が入职されます。人を育てるのは人です。皆さん一人一人が人材育成の力となりますのでご協力をお願いいたします。

新しい年がよりよき年となりますよう心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願いいたします。

輝生会 2017年の展望 一決意と感謝を込めて



リハケア局長 小林由紀子  
 新年あけましておめでとうございます。

新しい年、2017年、皆さまにはどのような夢を馳せて迎えられましたでしょうか。夢はいつも大切に胸に抱き、そしてあきらめずに努力を重ねて、いつか必ず実現したいものです。今年は酉年です。二つトリを観察すると、酉年生まれの特徴が分かってくるとのこと。スッと伸びた背筋と美しい羽。鋭い目で周囲を見回し、注意深く一歩一歩大地を踏みしめ、朝は一番に起き、コケッコーと声を張り上げ夜明けを知らせる。つまり酉年は、洗練された雰囲気と頭の切れの鋭さ、さらに些細なことに気がつき持続力もあるのが特徴だそうです。いろいろ予測が難しい昨今ですが、酉年に就いて努力を惜しまず、細やかな気付きと責任感を持って一年間を過ごしたいと思っております。

「活動」、「参加」を「トリ込む」酉年に



事務局長 森本 榮  
 新年あけましておめでとうございます。

新年早々ですが、年を重ねるたびに正月外出が邪魔臭くなり、食べて飲んで寝ることが多くなっています。若いころとは違い風邪もひきやすくなっています。ごろ寝を予防するには外に出かけたくなる「参加」目標が必要です。映画館や初売りだけでなく、テレビで放映した〇〇散歩やバスの旅などを巡るのも楽しいと考えます。

「参加」する目標があれば「活動」は促進され「心身機能」も向上し、風邪にも罹りにくい体になると思います。予防促進です。

私も1年通じて森本散歩集を作り出すように、干支の酉にちなんで軽快に動き「参加」の機会を「トリ込む」1年にしたいと考えています。

輝生会の基本理念と方針 ■「人間の尊厳」の保持 ■「地域リハビリテーション」の推進 ■「情報」の開示  
 ■「主体性・自己決定権」の尊重 ■「ノーマライゼーション」の実現

輝生会における患者さまの権利 ■ 人権を尊重される権利 ■ 最善の医療を受ける権利 ■ 自らの意思で選択・決定する権利  
 ■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利 ■ プライバシーの保護を求める権利

## 輝生会の研究発表とは

輝生会の研究発表会は、輝生会と新生会が合併した平成22年の10月10日に第1回を開催され、平成29年1月13日をもって37回目を迎えます。毎年、全職員参加を目標として年間5回～7回の開催をしております。平成27年度からは本部研修センターにて開催しています。

### ★研究大会には次に挙げる3つの目的があります。

1つ目は……

専門職種の研鑽の場であり、発表の登壇的的位置づけ

2つ目は……

輝生会にある5つの拠点の発表を聞き、交流の場としての目的

3つ目は……

院外のような研究会や学会の予演会の場としての目的です。

現在、8～9割が院外への予演発表となっております。内容的にも、開催回数を重ねるにつれ、年々質が高くなっているように感じています。また、発表だけではなく、特別講演の枠を設けており、毎回著名な講師の先生方をお招きし、ご講演を頂いています。

### 平成28年2月～11月発表者数（合計98名）

学会名	医師	看護師	ケアワーカー	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	義肢装具士	栄養管理士	ソーシャルワーカー	薬剤師
日本リハビリテーション医学会学術集会	2			5	2					
全国デイケア研究大会			1	2	1					
訪問リハビリテーション協会 学術大会				7	2	2				
リハビリテーション・ケア合同研究大会		1	1	6	3	3		1		
回復期リハビリテーション病棟協会 第27回研究大会		1	3	1	6				1	
千葉県回復期リハ連携の会 第6回全県大会		1								
日本理学療法学術大会				2						
日本理学療法士学会分科学会				1						
関東甲信越ブロック理学療法士学会				4						
東京都理学療法学術大会				1						
区西南部 理学療法 学術大会				1						
日本作業療法学会					8					
千葉県作業療法士学会					2					
日本義肢装具学会学術大会							1			
日本静脈経腸栄養学会								1		
日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会						1		1		
在宅栄養管理学会								1		
セコム医療研究発表会		2		1	1					
その他				1						
輝生会研究発表		7	1	2	2	1		3		1
合計	2	12	6	34	27	7	1	7	1	1

### 【発表の選考】

輝生会職員であれば誰でもエントリー可能になっています。もちろん、発表するためには各拠点の倫理委員会の審査と承認が必要になります。1つの研究発表会で12～24演題の枠を設けており、極力全員に発表してもらうように工夫しています。

### 【職員の研究発表への支援】

各部門、所属長などが中心となって研究計画書を作成する段階からの支援を行っています。船橋リハビリテーション病院では、外部の見識者を交えて研究相談会も開催されており、より質の高い研究を目指した環境が整いつつあります。

### 【職員が研究発表をする意義】

専門職として、良い実践のために臨床研究を行い、臨床の質を高めることには大きな意味があると思います。研究するプロセスで様々な疑問や課題が整理されることはもちろんのこと、研究成果が患者さまへの還元につながるものと考えます。また、人前で発表することは研究者自身の力になることはもとより、それを聞く他職員にも刺激を与え、その後の研究活動に対する動機付けにもなっていると思われれます。

文責：教育研修局 輝生会研究発表会担当 部長 池田吉隆

## 千葉県回復期リハビリテーション連携の会 第6回全県大会

〈テーマ〉

『ふれあおう! 回復期の仲間たち 2016』

〈サブテーマ〉

『あなたの力発揮できていますか～集めよう、みんなの力～』



10月1日、千葉県回復期リハビリテーション連携の会第6回全県大会(以下全県大会)が千葉港にあるホテルポートプラザちばにて開催されました。

千葉県回復期リハビリテーション連携の会とは、千葉県内の回復期リハビリテーションを担っている各職種の連携と資質向上を図ることを目的とし、平成23年度に立ち上がった会です。平成28年9月末現在、県内51施設が会員となっております。通常は3ヶ月に1回、1～2時間程度各施設の代表者のみが集まって開催しております。

全県大会は1年に1度開催し、各施設から参加者をつのり、回復期リハビリテーションに携わるスタッフの交流・連携を図るために開催しております。

参加施設が持ち回りで主幹となってメインの企画を考えて開催しており、今年度は当院が担当となって開催しました。例年500名から600名の参加がある為、ホテルポート

プラザちばのイベント用の部屋を全て貸し切って行なっています。

今回は、サブテーマを『あなたの力発揮できていますか～集めよう、みんなの力～』とし、輝生会のモットーであるチームアプローチを全面に押し出すこととしました。そのため、これまでの全県大会のメインイベントは講師を招いて講義を聞くスタイルでしたが、今回は患者さまのケアについて各職種の参加者が積極的に参加し意見を出し合うことができるように、との思いを込め模擬カンファレンスを行いました。

模擬カンファレンスには200名程度の参加があり、熱い意見交換をして頂きました。アンケートの意見からも他施設の方々と意見交換をする機会はあまりないので参考になった、との意見を多数頂きました。当院スタッフも29名がファシリテーターとして参加をしましたが、普段関わることの少ない他施設のスタッフさんとの意見交換を経てよい刺激となったようです。まさに今回のサブテーマである「集めよう、みんなの力」を体現することが出来たのではないかと思います。

当日は雨が降るなか、約500名の方が参加して頂きました。会の後には懇親会を催しサプライズとして当院の関山院長がスーパーマリオに扮して登場する等、参加者の方々にはリラックスしたムードで他施設との交流を楽しんで頂くことができました。当院スタッフ間でも、事前に何度も打合せを重ねて準備を進めて来た会をトラブルなく大盛況のもとに終えることができ、全県大会の開催により、一層の一体感を得ることが出来ました。

文責：船橋市立リハビリテーション病院 豊嶋浩志

### 女性活躍推進法に基づく行動計画「ワークライフバランスセミナー」が11月3日(木)に開催されました

テーマ案：

「あなたが輝く働き方。」

～秘訣はワークライフバランス～

講師/株式会社ワークライフバランス  
堀江咲智子氏



～講演概要～

日本の少子高齢化の影響、育児から介護まで時間制限をかかえるスタッフのマネジメント、キャリアプラン、作業効率や働き方の見直しまで幅広い内容を、親しみやすく講演いただき大変有益なひとときとなりました。(株)日本デイケアセンターのご協力の下保育サービスも提供でき、講演の内容も保育も参加者から好評をいただきました。

～参加者の声～

ワークライフバランスは全ての職員が対象になります。具体的には仕事と仕事以外の生活との調和をとることにより、その両方が充実している状態をいいます。1日は24時間と限られていますが、仕事も仕事以外も時間の使い方の工夫が必要だと感じました。

キャリア・ライフプランを考えるワークショップもあり、そこでは「いつまでに・何を達成したいか」を考えることが大事だということでした。そしてプランを立てることにハードルを感じる場合は「明日からできることは何か?」を考えて実行することが重要と学びました。

文責：サポート本部 廣岡彩美